

第9回「言論の自由を考える5.3集会」

討議記録

第9回
言論の自由を考える

5.3

集会



銃から守る生命・くらし

- 日時 1996年5月3日(祝)
午後1時30分→4時30分(開場:午後1時)
- 会場 神戸朝日ホール 三宮駅または元町駅から徒歩約7分
神戸市中央区浪花町59番地 TEL 078-331-6362
- 主催 朝日新聞労働組合

銃から守る生命・くらし

市民社会をゆるがす凶弾

一九八七年五月三日、当時二十九歳だった小尻知博記者の命を奪い、もう一人の記者に重傷を負わせた「阪神支局襲撃事件」から九年。テロの犯人はいまだ逮捕されておりません。

昨年は未曾有の大災害となった阪神・淡路大震災にはじまり、オウム真理教によるとみられる一連の異常な犯罪、金融機関の破綻による経済不安と、わが国の将来に暗い雲がかぶさっているかのような時代です。先行きの見えない時代を象徴するかのようには、銃器を使った犯罪が多発しています。警察庁長官が狙撃され重傷。東京・八王子のスーパーでアルバイト女子高生ら三人が縛られたうえ射殺。このほか、金融機関の幹部を狙った銃撃や一般市民が被害者になる事件が相次いでいます。

日本はこれまで銃とは無縁の社会といわれ、市民にとっては銃による犯罪など、別世界のことのように思われてきました。この常識が根底から崩されようとしています。集会の原点ともなつた銃器を使った犯罪がなぜこれほどまでに日本社会で起きるのか。なぜこれほど銃がはびこってきたのか、日本社会の変質といえるのか、ジャーナリズム・マスコミの取り組みは十分か。さまざまな角度から検証してみようという試みです。

朝日新聞労働組合

パネリストのみなさん

朝倉 喬司 (あさくら・きょうじ)

- 評論家・ルポライター 犯罪を精力的に追う。銃問題にも詳しく、著書に『犯罪風土記』など。

津田 哲也 (つだ・てつや)

- 銃器評論家 著書『銃社会ニッポン』で、市民社会にモデルガンショップ経営 しのび寄る銃社会を指摘。

堀江ひとみ (ほりえ・ひとみ)

- 主婦 (銃被害者の母親) 兵庫県尼崎市内で、一人娘を暴力団抗争の巻き添えに遭って失う。

本島 等 (もとしま・ひとし)

- 前長崎市長 天皇問題についての発言で、市長在任中に狙撃されて重傷を負う。

樋田 毅 (ひだ・つよし)

- 朝日新聞京都支局次長 大阪社会部の事件担当記者として阪神支局襲撃事件の発生以来、事件を追う。

◇コーディネーター◇

政井 孝道 (まさい・たかみち)

- 朝日新聞論説副主幹

